森林レンジャーあきる野新聞

Vol.180　2026年10月号
発行：森林レンジャーあきる野（加瀬澤）

どんぐりのみのり

どんぐりの結実状況調査

ツキノワグマ（以下、クマ）の秋期（9月から11月）の人里への出没と捕獲数が、秋の主要な食物であるどんぐりの実り具合で変わると言われていることから、平成25年より毎年、市西部においてどんぐりの結実状況調査を行っています。

そして、クマだけではなくイノシシやサルなどの大型哺乳類等もどんぐりを利用していることから、クマ等の大型哺乳類が秋期に人里へ出没する可能性の大小を把握し、注意喚起に役立てる目的で行っています。

調査しているどんぐり（調査時期の写真）



調査方法

樹冠全体の結実状況を目視で確認し、右の判定基準を基に評価しています。樹種によって調査本数は異なりますが、合計約200本調査しました。

市西部の4つの区域ごと、樹種ごと（ブナ、ミズナラ、ヤマグリ、コナラ）に結果を出しています。

［判定基準］

豊作	全体にたくさん
並～豊作	豊作と並作の間
並作	一部にたくさん 又は全体にまばら
不～並作	並作と不作の間
不作	全体に数個
凶作	全くない



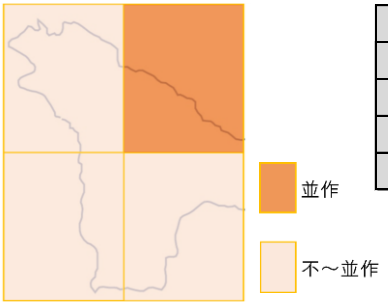
結果

市の西部全体の結実状況 **「不～並作」**

昨年（並作）より少し悪い結果となっています。市内の標高の高い山地から奥多摩にかけて自生するミズナラは、昨年同様ナラ枯れによる枯死が目立ちました。

そのため、市の標高の高い山地ほど**「不作」**に近い結果となっています。

［区域ごと］



［樹種ごと］

樹種	結果
ブナ	不～並作
ミズナラ	不～並作
ヤマグリ	不～並作
コナラ	並作

野生動物を人里に引き寄せない・人身被害を防止するための対策

- クリやカキ、キウイフルーツなどの果実の収穫
- 養蜂巣箱や不要となった農作物の管理
- 決まった時間のごみ出し
- 野生動物が隠れそうな草やぶの刈払い
- 早朝や夕方の入山を避ける
- 山に入る際の心構えとクマ鈴の携行

など、ご協力をお願いします

第16期 森の子コレンジャー　活動報告

９月のコレンジャーは、上旬と下旬に2回活動する予定でしたが、上旬の活動は雨天中止としたため、9月下旬と10月上旬に活動を行いました！

どちらの回もテーマは「森林レンジャーが行う調査活動を知る体験と季節の自然発見」です。9月下旬の活動日は、曇り時々晴れ。活動中は秋風が吹く中コオロギの仲間が鳴き、晴れるとまだセミの仲間の声も聞こえました。10月上旬の活動も同じく曇り時々晴れでしたが、もうセミたちの声は聞こえませんでした。

レンジャーのどんぐりや鳥の調査を知る以外にも、季節の動植物や野生動物の痕跡を発見したうえ、私たちにとって危険な生物「マダニの仲間」や山歩きで落枝などに注意しなければならない「ナラ枯れ木」にも出会いました。

秋風の心地よさを体感し、季節の動植物と出会い、着実に季節が変わっていることを感じられた2回の活動となりました。次回は11月です！

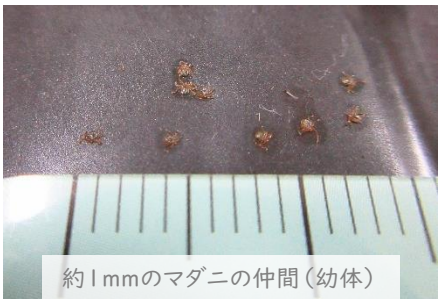








クサギの実



約1mmのマダニの仲間（幼体）



ハラビロカマキリ

季節の自然発見　～　長雨のあとは　～



雨が長く続いた後の晴れ間に巡視した9月下旬の日。

清々しい気持ちで空を見上げれば、ここぞ!とばかりに南を目指す渡り鳥が空をかけ、足元に目を向けると秋の実りやそれらを食べた野生動物の痕跡が早くも見られました。その痕跡の中には、ツノハシバミの実が食べられた痕もありました。

ツノハシバミは、カバノキ科の落葉低木で丘陵から山地の明るい林内に自生します。果実は角状の果苞（※）に包まれた、一見どんぐりに似た堅果です。野生動物に人気があるためか、10月になると中々出会えません。今月ラッキーな方は果実を見つけるかもしれませんが、必ず見られるのは既にスタンバイしている冬芽でしょうか。中でも、芽鱗がなく裸出したままの雄花序の冬芽は、特に分かりやすいのでぜひ観察してみてください。秋が深まる頃に美しく色づく黄葉も必見です！

※…花や果実を守るために変形した葉



堅果は角状の果苞に包まれている



堅果



雄花序の冬芽